

講義名	研究演習Ⅰ				
講義コード	25209	授業形態		開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限
担当教員	池田 曜子		サンバリング・コード		

学部・学科	演習分野
人間社会学科	対人間関係論／教育社会学/サブカルチャー

概要説明
この研究演習の目的は、対人間関係について心理学・社会学における基礎知識を身につけることです。さらに、対人間関係の重要要素である教育やサブカルチャーに関する分析を行うため、複数の領域について学ぶことが可能です。そのためには、以下のことが大切になってきます。 ① 自分自身がどのようなことに興味・関心を持っているのかについて、よく考える態度を身につけることができる ② 自分の知りたいこと、学びたいことを中心に、各自資料収集し、文献による知識の獲得にも努めることができる ③ 情報データ収集方法に関する知識と技法を獲得することができる ④ 自らを見直し、新たなことに挑戦することができる これらのことは、すべて自分で考え積極的に行動することが前提です。研究演習では、それぞれの興味・関心に基づいた研究と発表を中心に、幅広く学ぶことをめざします。

主な卒業論文のタイトル
・「計画的偶発性理論はどのように捉えられるのか：パーソナリティとの相関関係から見る」 ・「広告媒体による効果」 ・「『推し』の意義とその在り方とは：「推し」という活動が人に与える影響」 ・「人は幸福感をどのような時に感じるのか：身近な例から考察する」 ・「心霊スポットと恐怖心の関係性」 ・「ライブ・舞台・ミュージカルの在り方と満足感について：新型コロナウイルスの影響から考える」 ・「若年女性における瘦身願望と外見意識」 ・「現代の広告とその印象について」 ・「高校生活の満足度が充実度に及ぼす影響」 ・「麻酔を活用したリノベーションによる地域活性について」 ・「集団から孤立する人の特徴」 ・「学習意と学習時間を用いた学習モチベーションの変化について」 ・「古着とファストファッションの比較：その環境問題について」 ・「脳筋大とカーパーワークの関係について」 ・「仮想的有能感の4類型と就職イメージ・就職イメージとの関連について」 ・「メッセージアプリを使用が人間関係にどのような変化を与えたか」 ・「『お世辞』や『褒め』の行為が若者のコミュニケーションにどう影響を与えているのかについて」 ・「ジェンダーと偏見」 ・「大学のキャリア支援と大学生のメンタルヘルスに関する課題」 ・「笑顔と共感：苦労話はなぜ笑い話になるのか」

教員よりの要望
・ 自分自身で考え学ぶ意思があることが大前提です ・ 主体的・積極的な姿勢で取り組むことが必要です ・ 様々なことに興味・関心を持ち、狭い範囲の学びで満足しないようにしてください ・ 常に周囲のことに對して疑問を持つように心がけてください ・ 自分自身の能力の限界を認めつつ、未知の事情にも挑戦してください ・ 授業以外の時間に活動を行う場合があることを了解しておいてください ・ ルールやマナーを守り、他の人と気持ちよく学び合えるように心がけてください

選考方法
・ 公開ガイダンス、個別ガイダンスに必ず出席してください ・ 面接は、面接（志望動機・関心のあるテーマ）、演習申込書（記述内容）、成績（単位取得状況）などによって、総合的に判断します ・ 面接は、個別ガイダンス出席者を対象に行います（詳細は個別ガイダンス時に説明します）

評価方法
・ 出席は必ずしてください（やむを得ず欠席する場合は、必ず連絡すること） ・ 自主的・積極的に研究演習やその他の活動にのぞむ姿勢、発表内容、成果物にもとづき評価を行います

教員英字氏名	研究室
Ikeda Yoko	研究棟III 3406

最終学歴
奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士後期課程修了

学位
博士（学術）

主な研究活動・社会活動・研究業績
・「大学生の友人関係が学習意欲へ及ぼす影響－友人関係の機会獲得の観点から－」（『流通科学大学論集－人間・社会・自然編－』、2019年10月） ・「仲間集団研究とはなにかー学校教育における仲間集団研究への視座ー」（『流通科学大学論集－人間・社会・自然編－』、2019年3月） ・「多様な場面で応用可能な課題遂行能力育成のためのフィールドワークの可能性検証Ⅱ」（『高等教育センター紀要』第4号、2019年3月） ・「多様な場面で応用可能な課題遂行能力育成のためのフィールドワークの可能性検証Ⅰ」（『高等教育センター紀要』第3号、2018年3月） ・「再生産される『子どもらしさ』：好ましい子どもをめぐる語りから」（『子ども社会学研究』、2016年6月） ・「社会学は教育とどう向きあうのか」（『大学生のための社会学入門』、2016年3月） ・「社会習得はどのようなことがあるか：学習の様相」、「人が集まり、行動するとどうなるか：集団行動とその動き」、「社会的学習」（『新しい心理学へのアプローチ』、2014年12月） ・「中学生の仲間集団と教師の力動的関係」（奈良女子大学『人間文化研究科年報』第29号、2014年3月） ・「ママ友関係における対人葛藤経験とパーソナリティ特性との関連性」（日本パーソナリティ心理学会『パーソナリティ研究』、2014年3月） ・「いじめ」（福村出版『新・青年心理学ハンドブック』、2014年1月） ・「思春期（成長加速）」（ハーベスト社『子ども問題事典』、2013年7月） ・「学域内における仲間関係：子どもたちの所属集団間士の差異化戦略」（奈良女子大学『人間文化研究科年報』第28号、2013年3月） ・「大学生の友人関係における携帯電話利用の影響」（奈良女子大学『研究教育年報』第9号、2012年12月） ・「ネット社会におけるいじめの構造：現代青年たちの友人関係構造に対する携帯電話の影響」（『電気通信普及財団 研究調査報告書』No.27、2012年12月） ・「生徒たちの現場で：ジェンダー心理学の視点から」（かもがわ出版『現場の心理学』、2012年12月） ・「大学生の友人関係のありかた：2つの類型から」（奈良女子大学『差異と交感の人間学プロジェクト報告書』、2012年3月） ・「友人関係」（奈良教育大学『奈良県の子どものストレスと学校・家庭生活との相関に関する調査研究報告書（Part2）』、2009年3月） ・「子どもの生活と意識：奈良県子ども調査の結果から」（国土社『教育』8月号、2008年8月） ・「生活について（2）：家庭環境」（奈良教育大学『奈良県の子どものストレスと学校・家庭生活との相関に関する調査研究報告書』、2008年3月）

趣味・特技
特技：何でも興味を持つことができます。 明るく元気です。 趣味：読書、自転車、細かい作業

所属
人間社会学部人間社会学科心理コース

所属学会
日本発達心理学会 日本教育社会学会 日本教育心理学会 日本子ども社会学会 日本青年心理学会

専門分野
社会心理学 発達心理学 教育社会学 質的調査法

担当科目
学習心理学 社会心理学 質的調査法 教育社会学 特別活動論及び総合的な学習の時間の指導法 心理学実験基礎

備考
研究演習は大学生活の中でも非常に重要な位置を占めます。 私自身も大学時代、大学院時代のゼミ活動で、担当の先生やゼミ生同士の関りから大きな影響を受けた結果、この仕事に就きました。自分の人生を決めるうえでの重要な選択になると考え、ゼミを選んでください。そして、教員と他のゼミ生との活動の中から、知識を得るだけでなく、実践的な学びを得てください。 最後に、私がゼミを担当する上で一番大切にしていることを書いておきます。 卒業するまで、ゼミ生の皆さんのことは私が必ず責任を持ち、関わっていきつくりです。大学のことだけでなく、日常生活で不安なことは、一緒に悩み、考えていきたいと思っています。ぜひ、大学生活において、想像力をたくましくして自由に色々なことに挑戦してください。

実務経験の有無及び活用